

音が「意味」するものとは 8

『フィンランドに行って参りました』

文 光吉俊二

text by Shunji Mitsuoyoshi

私

の発明した、音声から脳神経活動を分析して精神状態（感情・ストレス・抑うつ状態など）の度合いを検出する技術をフィンランドの政府機関が正式導入するということで呼ばれました。

結果は予想をはるかに超え、医療認定（機器・ソフト）政府公式採用に伴い、EUでの標準化、自殺防止コールセンターコールセンターにおいて世界最先端システムとして導入することなどが決まりました。

わが目わが耳を疑うほど、副市長・官僚・企業家・精神科医や専門医たちの絶賛を受けて帰国しました。

うつ病大国で自殺率世界一だったフィンランドは、薬に頼る医療体制から、カウンセリングと24時間コールセンター体制を導入して、大幅な医療費の削減と自殺低減を実現させてきました。その世界最高のメンタルヘルス協会と厚生省、経済省が一丸となって私の技術を世界標準にすると決定しました。

日本では「うつ病を計測できる」とはいえないような脳計測機器を使って、客観的な判断基準を用いず、小学生や幼児にも無制限に、しかも米国ではすでに禁止されている薬を投与していると聞いています。

最近では、政府系の機関からの献金により、結果が出てなくても国際的な賞が付与される時代ですが、目の前で苦しむ患者を救いたいという純粋な医の精神に国境はないと思います。

音声から簡単に精神状態をスクリーニングできるだけでも、大幅な医療費の削減が可能です。その分を医師の報酬や診療時間の延長などに使うことで、医療の発展や患者の満足度を高めることができます。同じ検査を何度も行う必要もなくなります。

フィンランドの医療システムは、日本の医療崩壊対策のヒントになると感じました。フィンランドでは、患者はまず外来コールセンターに連絡して専門のナースと会話します。ナースは検討した後、電話で患者が受診する医療

機関を連絡します。

このトリアージ（優先順位）での病状判断はすべて正しいとはいえないし、安い公営の医療機関の場合は何週間も待つので、風邪程度では受診しません。受診を待っている間に風邪ぐらいなら

治ってしまうかも知れません。しかし、医療費抑制という点では有効でしょう。

医療費で崩壊する日本経済の根本的な解決策のヒントがここにあると確信した次第です。

Profile

日本の情報工学者であり彫刻家。北海道札幌市出身。多摩美術大学美術学部彫刻科卒業。徳島大学大学院工学研究科博士後期課程修了、現在、博士（工学）。元スタンフォード大学バイオロボティクス研究所 Visiting Scientist（客員科学者）。現在、東京大学非常勤講師、株式会社AGI代表取締役である。専門は、ST（Sensibility Technology）感性制御技術・VER 音声感情認識技術、音声脳神経分析技術。

